三田焼とは

江戸時代に三田市の志手原、三輪、虫尾で作られたやきものを三田焼といいます。

三田焼はいつごろはじまりましたか？

三田焼の始まりは「寛政年代摂津有馬郡志手原、土焼始まる」[※1]との記録がありますが、それよりも古いともいわれています。

三輪明神窯のはじまりは？

三田で青磁の釉薬になる石が採れることを陶工内田忠兵衛がつきとめ、青磁など磁器生産をするために豪商神田惣兵衛に支援を申し入れをしました。(イラスト1会見図)

その後、京焼の陶工欽古堂亀祐らを招いて、盛んに生産をおこないました。当時は各地の窯の名工たちとの交流もあり、多くの名品を生産しました。

どのようなものがつくられていましたか？

やきものの種類は青磁、染付、色絵などです。器の種類は花生、香炉、植木鉢などです。

中でも特徴的なものは直径10㎝前後の青磁小皿です。形も三角形、四角形、輪花形など様々な形があります。

青磁小皿などはどのように作るのですか？

小皿などは土型を用いて作ります。

型作りは同じ厚さの粘土板を作り、土型にかぶせ、指で押さえて形や文様を写し取ります。この技法で複雑な形や文様の皿などを量産することができます。土型や生産技法を欽古堂

欽古堂亀祐土型 銘文「欽古作之文化三玄夏」
※文化3年は西暦1806年

亀祐が指導しました。(イラスト2)

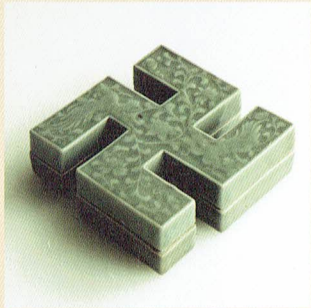
今も三田焼はありますか？

三田焼の生産は一度終わりますが、明治以降に三田陶磁会社として新たに運営を始め、やきものの輸出もしました。また、内国勧業博覧会に出展し有功賞などを受け、三田焼が全国に広まりました。その後、主要な窯主たちが亡くなり、昭和10年代には生産が終わりました。現在、三田焼の一部は三田市で収蔵、展示活用しています。また、当時の三田焼に触れることができるように、県指定史跡である三輪明神窯跡を史跡園として整備し、窯跡の見学や当時の陶工になった気持ちで、やきもの体験をすることができます。

染付牡丹唐草宝尽文四方蓋物

※1
寛政…1789～1801年までの期間

※2
内国勧業博覧会…明治に日本の物品や資料などを展示し、多くの人に見てもらうことで、国の近代化を勧めるためにおこなわれていた博覧会。



青磁双鳳凰文卍形香合

赤絵水禽文角皿

三田焼略年表

西暦	できごと
1751	これより以前**小西金兵衛**、志手原で陶器を焼く
1799	三輪明神窯をひらく この頃より、京焼の**欽古堂亀祐**が三田焼に関わりをもつ
1822	**神田惣兵衛**、虫尾新田窯をひらく
1839	**神田惣兵衛**の後、**向井喜太夫三**、三輪明神窯を引き継ぐ
1859	**田中利右衛門**、三輪明神窯を引き継ぐ
1874	三田陶器会社を設立
1889	**芝虎夫**を中心に三田青磁合資会社として新発足
1919	三田焼最後の陶工**小西百助**、志手原新窯を開く
1933	三輪明神窯閉窯し**内田久太郎**は、志手原新窯の絵付師となる
1944	志手原新窯閉窯
1974	三輪明神窯跡のうち第１号窯県指定史跡となる
2003	三輪明神窯跡を整備し三輪明神窯史跡園開園

発行／三田市生涯学習支援課
〒669-1595　兵庫県三田市三輪2-1-1
TEL.079-559-5145(直通)
FAX.079-563-3611
13生涯3-099他

三田焼伝

青磁水鳥文角花生
(刻書「三田□町札辻　□神屋惣兵衛」)